

2025年2月4日 実施

埼玉医科大学

医学部 前期 物理

(制限時間 理科2科90分)

解答速報

医学部専門予備校



解 答



第1問

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ① | 2 | ③ | 3 | ⑦ | 4 | ④ | 5 | ① |
| 6 | ⑤ | 7 | ⑦ | 8 | ⑤ | 9 | ⑥ | | |

第2問

- | | | | | | | | | | |
|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| 10 | ⑧ | 11 | ⑨ | 12 | ③ | 13 | ⑦ | 14 | ⑦ |
| 15 | ⑥ | 16 | ③ | 17 | ⑧ | | | | |

第3問

- | | | | | | | | | | |
|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| 18 | ④ | 19 | ③ | 20 | ⑨ | 21 | ⑨ | 22 | ② |
| 23 | ① | 24 | ③ | 25 | ⑨ | 26 | ③ | 27 | ③ |
| 28 | ④ | 29 | ⑧ | 30 | ⑦ | 31 | ④ | | |

解 説

第1問

問1 点Pにおける円運動の方程式より,

$$m \frac{v^2}{r} = N - mg \cos \theta \quad \therefore \quad N = \frac{mg \cos \theta + m \frac{v^2}{r}}{\boxed{1} : \textcircled{1}}$$

問2

(1) 点Cにおける円運動の方程式より,

$$m \frac{v_C^2}{r} = -mg \cos 120^\circ \quad \therefore \quad v_C^2 = \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \sqrt{gr} \quad \boxed{2} : \textcircled{3}$$

(2) 力学的エネルギー保存の法則より,

$$\frac{1}{2} m v_1^2 = \frac{1}{2} m v_C^2 + mg \cdot \frac{3}{2} r \quad \therefore \quad v_1 = \frac{\sqrt{14}}{2} \cdot \sqrt{gr} \quad \boxed{3} : \textcircled{7}$$

問3

(1) 点Cにおける鉛直方向の速度成分が $\frac{\sqrt{3}}{2} v_C$ であるから, 等加速度運動の式より,

$$0^2 - \left(\frac{\sqrt{3}}{2} v_C \right)^2 = -2g \left(h - \frac{3}{2} r \right) \quad \therefore \quad h = \frac{3}{2} r + \frac{3v_C^2}{8g} = \frac{27}{16} r \quad \boxed{4} : \textcircled{4}$$

(2) 落下までの時間 t をとして, 等加速度運動の式より,

$$-\frac{\sqrt{3}}{2} v_C t + \frac{1}{2} g t^2 = \frac{3}{2} r \quad \therefore \quad t = \sqrt{\frac{6r}{g}}$$

点Bからの落下距離を x として,

$$x + \frac{\sqrt{3}}{2} r = \frac{1}{2} v_C t = \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} \sqrt{gr} \cdot \sqrt{\frac{6r}{g}} = \frac{\sqrt{3}}{2} r \quad \therefore \quad x = 0 \quad \boxed{5} : \textcircled{1}$$

※ 点Cで離れるとき点Bに達するのは有名問題である。

問4 初速度を v_0 , 点Dでの速さを v_D , 垂直抗力の大きさを N とすると,

$$\text{エネルギー保存の法則: } \frac{1}{2} m v_D^2 + mg \cdot 2r = \frac{1}{2} m v_0^2$$

$$\text{点Dでの円運動の方程式: } m \frac{v_D^2}{r} = mg + N$$

点Dを通過する条件は $N \geq 0$ であり, このとき円運動の方程式より $v_D \geq \sqrt{gr}$, エネルギー保存の法則より,

$$v_0 \geq \frac{\sqrt{5}}{2} \cdot \sqrt{gr} \quad \boxed{6} : \textcircled{5}$$

となる。

※ $\sqrt{5gr}$ 以上は有名問題である。

問5

(1) 点Dを通過してから床に完全非弾性衝突し、壁に当たって跳ね返るまで、aの水平方向の「速さ」は変わらない。その後、点Cまで達するならば、この速さは v_1 である。点Dで速さ v_1 をとることから、初速度を v_0 とすればエネルギー保存則より、

$$\frac{1}{2}mv_1^2 + mg \cdot 2r = \frac{1}{2}mv_0^2 \quad \therefore v_0 = \sqrt{v_1^2 + 4gr} = \frac{\sqrt{30}}{2} \sqrt{gr}$$

(2) 求める距離は点Dから v_1 で水平投射されたときの水平到達距離である。これを x とする。到達時間を t とすれば鉛直下向きの等加速度運動の式より、

$$2r = \frac{1}{2}gt^2 \quad \therefore t = \sqrt{\frac{4r}{g}}$$

水平左向きの等速度運動の式より、

$$x = v_1 t = \frac{\sqrt{14gr}}{2} \cdot \sqrt{\frac{4r}{g}} = \frac{\sqrt{14}}{2} r$$

問6 点Dを通過して点Bから距離 $2r$ 離れた床に落下するために要する点Dでの速さを v_{D2} とすると、水平左向きの等速度運動の式より、

$$v_{D2}t = 2r \quad \therefore v_{D2} = \frac{2r}{t} = \sqrt{gr}$$

すると、2度目に点Bを通過するときの速さ v_{B2} はエネルギー保存則より、

$$\frac{1}{2}mv_{B2}^2 = \frac{1}{2}mv_{D2}^2 + mg \cdot 2r \quad \therefore v_{B2} = \sqrt{5gr}$$

1度目に点Dを通過するときの速さ v_{D1} は v_{B2} に等しい。求める初速度 v_{B1} はエネルギー保存則より、

$$\frac{1}{2}mv_{B1}^2 = \frac{1}{2}mv_{D1}^2 + mg \cdot 2r \quad \therefore v_{B1} = \sqrt{9gr} = 3 \cdot \sqrt{gr}$$

※ 手慣れていれば $\sqrt{1+4+4} = 3$ と簡単に計算できる。

第2問

問1 状態IIにおける気体の圧力を p_2 とすれば、ピストンとおもりの力のつり合いより、

$$p_2 S = p_a S + Mg \quad \therefore M = \frac{(p_2 - p_a)S}{g}$$

状態IからIIは断熱変化であるから、poisson 則より

$$p_2 \left(\frac{V_0}{2} \right)^{\frac{5}{3}} = p_a V_0^{\frac{5}{3}} \quad \therefore p_2 = 2^{\frac{5}{3}} p_a$$

以上より,

$$M = \frac{\left(2^{\frac{5}{3}} - 1 \right) p_a S}{\boxed{10} : \textcircled{8}} g$$

問2 単原子分子であるから内部エネルギーの変化 $\Delta U_{I \rightarrow II}$ は,

$$\Delta U_{I \rightarrow II} = \frac{3}{2} \left(p_2 \frac{V_0}{2} - p_a V_0 \right) = \frac{3}{2} \left(2^{\frac{2}{3}} - 1 \right) p_a V_0$$

$\boxed{11} : \textcircled{9}$

問3 おもりを置く前のことであるから, おもりの位置エネルギーとは何の関係もない。

ピストンに質量もない。ゆえにピストンに加えた手のした仕事 $W_{I \rightarrow II}$ は, 気体が外部からされた仕事に等しい。熱力学第1法則より,

$$W_{I \rightarrow II} = \Delta U_{I \rightarrow II} = \frac{3}{2} \left(2^{\frac{2}{3}} - 1 \right) p_a V_0$$

$\boxed{12} : \textcircled{3}$

問4

(1) 状態IIIにおける気体の圧力を p_3 とする。ピストンとおもりの力のつり合いより,

$$p_3 S = p_a S + M'g \quad \therefore p_3 = p_a + \frac{M'g}{S}$$

理想気体の状態方程式より,

$$nRT_{III} = p_3 \cdot \frac{1}{2} V_0 = \left(p_a + \frac{M'g}{S} \right) \frac{V_0}{2}$$

$\boxed{13} : \textcircled{7}$

(2) ピストンに外から働く力の大きさは一定 $p_a S + M'g$ であり, ピストンが静止する

までの正味の下降距離は $\frac{V_0}{2S}$ であるため, 気体が外からされた仕事 $W_{I \rightarrow III}$ は,

$$W_{I \rightarrow III} = (p_a S + M'g) \frac{V_0}{2S} = \left(p_a + \frac{M'g}{S} \right) \frac{V_0}{2}$$

$\boxed{14} : \textcircled{7}$

問5 外部と熱のやり取りはないため, 熱力学第一法則より,

$$\frac{3}{2} \left\{ \left(p_a + \frac{M'g}{S} \right) \frac{V_0}{2} - p_a V_0 \right\} = \left(p_a + \frac{M'g}{S} \right) \frac{V_0}{2} \quad \therefore M' = \frac{5}{\boxed{15} : \textcircled{6}} \cdot \frac{p_a S}{g}$$

問6 状態方程式より,

$$nRT_{III} = 3p_a V_0 = 3nRT_0 \quad \therefore T_{III} = \frac{3}{\boxed{16} : \textcircled{3}} \cdot T_0$$

問7 過程III→IVは断熱膨張であるから poisson 則より,

$$T_{IV}V_0^{\frac{2}{3}} = T_{III}\left(\frac{V_0}{2}\right)^{\frac{2}{3}} \quad T_{IV} = \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{2}{3}} T_{III} = \frac{3\left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{2}{3}}}{\boxed{17} : \textcircled{8}} T_0$$

第3問

問1 このとき、 $E_x = -3.0 \text{ V/m}$ 、 $E_y = 0$ であるため、

$$\vec{E}_A = \underline{(-3.0, 0)} \text{ V/m}$$

$\boxed{18} : \textcircled{4}$

である。電場 \vec{E}_A は x 軸に沿った方向を向いているため、等電位線は y 軸に平行である。よって、電位は y 座標によらず、 x 軸上の電位を計算すればよい。位置 (x, y) [m]における電位 V_A [V]は、位置 $(x, 0)$ [m]における電位として計算すれば、

$$V_A = -E_x x = 3.0 x \text{ [V]}$$

となる。 $x = 0$ における電位が0となるように、定数項は0とした。解答形式に合わせると、

$$V_A = \underline{3.0} x + \underline{0} y + \underline{0} \text{ [V]}$$

$\boxed{19} : \textcircled{3} \quad \boxed{20} : \textcircled{9} \quad \boxed{21} : \textcircled{9}$

問2 このとき、 $E_x = -3.0 \text{ V/m}$ 、 $E_y = -4.0 \text{ V/m}$ であるため、

$$\vec{E}_{AB} = \underline{(-3.0, -4.0)} \text{ V/m}$$

$\boxed{22} : \textcircled{2}$

である。

B単独で閉じたときの電場 \vec{E}_B は y 軸に沿った方向を向いているため、問1と同様に考えて、位置 (x, y) [m]における電位 V_B [V]は、位置 $(0, y)$ [m]における電位として計算すればよい。よって、

$$V_B = -E_y y = 4.0 y \text{ [V]}$$

である。電位には重ねあわせの原理が成立するため、A、Bをともに閉じたときの電位 V_{AB} [V]は、

$$V_{AB} = V_A + V_B = \underline{3.0} x + \underline{4.0} y + \underline{0} \text{ [V]}$$

$\boxed{23} : \textcircled{1} \quad \boxed{24} : \textcircled{3} \quad \boxed{25} : \textcircled{9}$

問3 点電荷 Q の初期位置を $(x_0, y_0) = (3.0 \times 10^{-3} \text{ m}, -1.0 \times 10^{-3} \text{ m})$ とし、質量を $m = 1.0 \times 10^{-10} \text{ kg}$ 、電気量を $q = 4.0 \times 10^{-8} \text{ C}$ とする。初期位置において Q がもつ位置エネルギー U_0 は、電気量 q と初期位置における電位 V_{AB} の値の積として、

$$\begin{aligned} U_0 &= q \cdot (3.0x_0 + 4.0y_0) \text{ [J]} \\ &= 4.0 \times 10^{-8} \cdot \{3.0 \cdot 3.0 \times 10^{-3} + 4.0 \cdot (-1.0 \times 10^{-3})\} \text{ J} \\ &= \underline{2.0} \times 10^{-10} \text{ J} \end{aligned}$$

$\boxed{26} : \textcircled{3}$

と表せる。 $V_{AB} = 0$ となる位置 (x_1, y_1) に達したときのQの速さを u とすれば、エネルギー保存則より、

$$\frac{1}{2}mu^2 = U_0$$

が成り立つ。よって、

$$u = \sqrt{\frac{2U_0}{m}} = \sqrt{\frac{2 \cdot 2.0 \times 10^{-10} \text{ J}}{1.0 \times 10^{-10} \text{ kg}}} = \frac{2.0 \text{ m/s}}{\boxed{27} : \textcircled{3}}$$

である。右図のように、Qは電場に沿った向きに加速されることで、 (x_1, y_1) において電場に沿った向きの速度を持つ。よって、この点におけるQの x 成分 u_x 、 y 成分 u_y は、それぞれ

$$u_x = -\frac{3}{5}u, \quad u_y = -\frac{4}{5}u$$

と書ける。運動量変化と力積の関係より、 (x_1, y_1) に達するまでにQが受けた力積の x 成分 I_x および y 成分 I_y は、それぞれ

$$I_x = mu_x = -\frac{3}{5}mu = -\frac{3}{5} \cdot 1.0 \times 10^{-10} \text{ kg} \cdot 2.0 \text{ m/s} = \frac{-1.2 \times 10^{-10} \text{ N} \cdot \text{s}}{\boxed{28} : \textcircled{4}}$$

$$I_y = mu_y = -\frac{4}{5}mu = -\frac{4}{5} \cdot 1.0 \times 10^{-10} \text{ kg} \cdot 2.0 \text{ m/s} = \frac{-1.6 \times 10^{-10} \text{ N} \cdot \text{s}}{\boxed{29} : \textcircled{8}}$$

である。

電位の基準線（原点Oを通る等電位線）は、問2で求めた V_{AB} を用いて $V_{AB} = 0$ ，すなわち、

$$3x + 4y = 0$$

で表される直線である。一方、Qの軌跡を表す直線Lの方程式は、等電位線に直交しかつ初期位置 (x_0, y_0) を通る直線として、

$$4(x - x_0) - 3(y - y_0) = 0$$

と表される。これら2直線の交点が (x_1, y_1) であるから、2式を連立して解けば、

$$\begin{aligned} x_1 &= \frac{4}{25}(4x_0 - 3y_0) = \frac{4}{25} \{4 \cdot 3.0 \times 10^{-3} - 3 \cdot (-1.0 \times 10^{-3})\} \text{ m} \\ &= \frac{2.4}{\boxed{30} : \textcircled{7}} \times 10^{-3} \text{ m} \end{aligned}$$

$$y_1 = -\frac{3}{4}x_1 = \frac{-1.8 \times 10^{-3} \text{ m}}{\boxed{31} : \textcircled{4}}$$

